

短歌

末武 有二 選

町広報朝刊よりも身近なり来る日過ぎし日町
伝え行く 町広報係愛好会
収穫もあつといふ間の仕舞ひ田に稲のひこば
え早も連並む 安永 守住 孝子
ひとけない冬の港に陽がさして鈍色の海しは
し輝く 木山 赤城 香織
御社は紅葉なす木々あやなせり石路も咲き風
情をみする 惣領 島田 廣子
歩く道師走というに暖かい我いく所七竈あり
赤井 米澤 さわ
陽が沈む秋の日暮は釣瓶落ち家路に向う足取
り軽い 赤井 増岡 伸禧
八十年使い放しのわが身体疲れ取れぬも致し
方なし 惣領 垣野 幸一
空青く山波映える益城野の食べて満足太秋柿
を 惣領 新居 露子
傷癒て一歩踏み出す夫の背に声かけ歩き安堵
の笑顔 広崎 日野ヒロ子
老いてこそ人生だよと気付かされいきづく私
笑顔で邁進 馬水 増田 訓子
初歩き転んで起きて一歩二歩微笑む顔に下の
歯二本 惣領 甲斐 道夫
保護色の葉を食い荒らす青虫は姿隠せど便は
隠せず 木山 本田 龍子

俳句

河野 全平 選

「生命力」撒いた豆から発芽した
葉ボタンと日記を買った師走かな
夕暮れや眠る山波飯田山
銀杏散る足踏みしめてウォーキング
稲実る猪よけの電気柵
友人へまだ元氣だと年賀状
柿を剥く夫の背中秋日和
吹きまくる師走の風と物価高

川柳

布田川左門 選

村しばい大根役者にエールかな
半導体総理大臣御満悦
「列車」まで引つ張って来た半導体
八百万の神よりエライ半導体
半導体仙酔峽へ冬登山
半導体セイシヨコさんもおよろこび
南から半導体の直行便
半導体菊池の里へ降りにけり
赤井 増岡 政界 通
増岡 酔粋
遠めがね
太公望春夫
北酒場
やぶにらみ
松田三郎
菊池溪谷

投稿は投稿者の住所、電話番号を必ず記入し、役場広報係まで。締切は毎月15日(必着)です。

人権

Vol.524

誰もが安心して暮らせるまちへ
～感染症をめぐる人権～

感染症って、怖いなって思ったことありませんか？ 病気になることも心配ですが、感染した人やその家族が偏見や差別にさらされるのも悲しいことです。誰もが安心して暮らせるまちにするには、感染症を正しく理解し、お互いに思いやりの気持ちを持つことが大切です。

町は予防接種や結核検診などの施策を通じて、感染症の拡大防止と町民の健康維持に取り組んでいます。また、健康を守るためには、バランスの良い食事、適度な運動、十分な睡眠など生活習慣の向上も鍵となります。ワクチン接種も効果的な予防手段の一つです。

さらに健康についての情報発信として、高齢者向けのふれあい交流会で「感染症予防と健康づ

くり」について、ファミリー・サポート・センターでは「子どもの感染症予防」についての講話を実施しました。今後も、町民の皆さんに向けた健康に関する情報を積極的に提供していきます。

感染症は、誰もがかかる可能性があります。身近に感染者が出た場合、その人を責めたり避けたりするのではなく、温かい気持ちで見守り、互いに支え合うことが大切です。

また、感染症に関する正しい情報を知り、SNSなどで広まる不確かな情報には惑わされず、各自が自分の立場でできることを考え、行動することが重要です。誤った情報は不安や偏見を助長し、差別を生み出す原因にもなります。

今後も、さまざまな感染症が身の回りで流行するかもしれません。そういった状況でも、正確な情報に基づいて行動し、互いの人権を尊重することで、誰もが安心して暮らせるまちにしていきたいものです。

以下全て午前8時30分～午後5時15分

- 女性の人権 女性の人権ホットライン ☎0570-070-810
- 子どもの人権 子どもの人権110番 ☎0120-007-110
- いじめについて 益城町いじめ電話相談 ☎286-1770
- さまざまな人権問題 益城町福祉課人権対策係 ☎289-1400



屋根に施された「菊と桐」の紋章

「津森神宮 お法使祭」
津森神宮お法使屋会
益城町文化財保護委員会

殿改修工事では、現在は見ることでできない神殿の正面と拝殿の北面に施された精巧な彫刻があらわにされました。
神殿と拝殿の正確な建立時期は不明ですが、明治4(1871)年に建て替えられた旧楼門の棟札に「明治八年十月十六日棟上」と記されていることから、これらの建立はそれ以前と推測されます。今後の専門家の詳細な調査が期待されます。

現在の境内には、神殿、拝殿、楼門、東末社、西末社が配置されています。神殿と拝殿は当初別棟で建てられ、後に幣殿で連結されたと考えられています。直近の拝
津森神宮は、町を代表する神社の一つです。宝治元(1247)年、鎌倉幕府5代将軍・藤原頼嗣により、見竹村(現在の下陳北向)の古津森宮から寺中村に移築されたと伝えられています。
建立後、天皇の勅使が下向し、皇室の紋章である「菊と桐」の紋を開扇子に載せて奉納しました。「津森宮縁起祭祀記」によると、この時から「菊と桐」が津森宮の紋章となり、県下でも珍しい神格を持つ神社として知られるようになりました。しかし、安土桃山時代末期には、堂宇全てが焼失してしまいました。
現在、境内には、神殿、拝殿、

益城の文化財
町文化財保護委員会



寺中

津森神宮

「菊と桐」の紋章